

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月31日現在

機関番号：33702

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500252

研究課題名（和文） 引用に着目した抄物の研究

研究課題名（英文） Study of Shoumono from citation perspective

研究代表者

住谷 芳幸（SUMIYA YOSHIYUKI）

岐阜女子大学・文化創造学部・教授

研究者番号：50179305

研究成果の概要（和文）：『蒙求』に関する清原宣賢の注釈を記した『蒙求』欄外の書入れ、『蒙求聴塵』、『蒙求抄』について、相互の引用関係を調査した。その結果、『蒙求』欄外の書入れ、『蒙求聴塵』は、数度にわたり書入れられていること、『蒙求抄』については、行間の書入れを本文に取り込むことで新たな本文が作成されていることを確認した。このように清原宣賢の『蒙求』についての著述は、「増殖するテキスト」とでも呼ぶべきものであったと言えよう。

研究成果の概要（英文）：Regarding the notes in the margin of "Mougyuu", "Mougyuu-Choujin" and "Mougyuu-shou" that includes annotations of "Mougyuu" by Nobukata Kiyohara, I studied the citation relationships among them. As a result, I confirmed that notes were written over several times for the notes in the margin of "Mougyuu" and "Mougyuu-Choujin", while in "Mougyuu-shou" new sentences were created by inserting the notes in the margin between lines into the main text. Thus, it can be said that Nobukata Kiyohara's literatures about "Mougyuu" was something like "texts that are proliferating".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学、図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：中国文学、抄物、清原宣賢

1. 研究開始当初の背景

(1)中世における漢文系・国文系学問の特徴として古典的作品の注釈作業があげられる。これは漢文系・国文系の古典的作品を従来の解

釈とは異なり、中世という新たな文脈の中で読み直し、再生させようという試みということが出来よう。そこでは、古典的作品に対して旧来の解釈とは異なった解釈をほどこす

ために、単語の意味、漢字の発音等を細かく検討し、新たな解釈がなされた。そして、これらの解釈は文字化され、抄物とよばれる一連の書物・出版物として公開された。これらの抄物は、当時の口語を反映するものとして日本語学の資料としても広く研究されてきた。本研究代表者も、これらの抄物に見出される当時の漢字音を明らかにすることを目的とし、多年にわたり、これらの抄物で利用される事の多い韻書『広韻』『古今韻会挙要』、また韻図『韻鏡』につき、コンピュータで利用可能なデータの作成を目的とする作業を行ってきた。

(2)ところで、この抄物での記載は、漢字音についての記載を含め、その抄物の記載者、すなわち抄者が行った古典的作品に対する解釈ばかりではない。そこには、もちろんそれを批判することが目的であるにしろ、旧来の解釈も引用として含まれている。この旧来の解釈には、現在十分に確認できないものの、その作品によっては、奈良時代からの学問の系譜に連なる解釈も含まれるかもしれない。ここで「十分に確認できない」としたのは、当時の学問・研究が、現代の学問・研究とは異なっているからである。具体的にいえば、引用が引用として明示されない場合が多いのである。もちろん、古典的作品からの引用については、その書名が明示される。しかし、注釈・解釈については、必ずしも引用であることが明示されず、その抄物の抄者の注釈・解釈かどうかには疑問が残るものも多く見出せるようである。従来抄物についての研究では、この注釈・解釈の部分、特に引用であることが明示されない限り、すべて単純に抄者の記載と考え、他書からの引用かどうかの検討はなされていない。その結果、資料の均質性に疑問があり、その結論も疑わしい部分が多々見出される。もちろん、このような他書からの引用かどうかは、数多くの抄物が何らかの形でデータベース化されていれば簡単に判別できると思われるのだが、現在のところ、単純な全文データですら公開されていないのが実情である。

(3)上のような観点から抄物のデータベース化について検討した結果、引用については、さらに問題点が見出された。例えば、『蒙求』（京都大学附属図書館清家文庫蔵）『蒙求聴塵』（慶応大学附属図書館蔵）古活字版『蒙求抄』（宮内庁書陵部蔵）という三種の書籍がある。『蒙求』は漢文の書籍であり、清原業賢が本文を写し、父の清原宣賢が注を加えたものである。『蒙求聴塵』は、『蒙求』についての清原宣賢による抄物であり、手控え抄などとよばれるものである。『蒙求抄』は、清原宣賢による『蒙求』の講義録を印刷、出

版したものであり、聞き書き抄などとよばれるものである。これらの書籍中の『蒙求』『王戎簡要』の部分には次のような記載が見出される。『蒙求』は頭注であり、『蒙求聴塵』『蒙求抄』は本文である。

「竹林七賢之一人也」 『蒙求』
「竹林七賢之一人也」 『蒙求聴塵』
「竹林ノ七賢ノ一人ソ」 『蒙求抄』

これらは、ほぼ同一の文章であり、あきらかに原漢文『蒙求』に書入れた頭注を、手控え抄である『蒙求聴塵』に書入れ、それを講義に利用した結果、口頭語の形で聞き書き抄である『蒙求抄』に記録されていると考えられる。さらに、漢文である『蒙求』に加えられた「竹林七賢之一人也」という頭注も現在確認は出来ないものの、なんらかの他書からの引用の可能性も否定できない。以上のような注釈の引用は随所に見出され、『蒙求抄』などは、『蒙求』の頭注、あるいは『蒙求聴塵』の本文の引用から成立しているといっても、過言ではない。しかし、『蒙求』『蒙求聴塵』『蒙求抄』でのこれらの注記は、清原宣賢の注記を清原宣賢自身が引用しているかのようではあるものの、上述のように他書からの引用である可能性も否定できないのである。

(4)以上の事は、抄物を研究する際に、次の点に留意する必要があることを示している。注釈の引用とその引用元の関係を明らかにすること。その引用がどのように改変されているかを明らかにすること。の問題は、抄物についての数多くの全文データがあれば可能になるであろう。しかし、これについては、相互に対照可能な本文が必要となる。その上で、その違いが単なる引用の改変なのか学問的發展なのかを見極めることは、中世における学問のあり方を探る上での、重要な視点となるように思われる。以上の点から、抄物の全文データの作成と、その抄物での注釈を、注釈の引用という点に注目しつつ対照することを目的として本研究を計画した。

2. 研究の目的

(1) 清原宣賢が、漢文『蒙求』欄外書入れ、及び『蒙求聴塵』の作成の際に、また『蒙求抄』の講述の際に、これらの書の記載部分を引用し、利用したかどうかの検討には、相互の文献を対照し、類似部分を確認することが必要である。そのためには、それらの本文を全文データ化し対照することが可能な本文を作成することが必要である。そこで、京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』（上中下三巻）の本文及び欄外書入れ、慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』（上中下三巻）、宮内庁書陵部蔵古活字版『蒙求抄』（七冊中第一冊）、米沢市立図書館蔵『蒙求抄』（上中二巻）の

全文データ化を行い、対照可能な本文を作成することが第一の目的である。

(2) 上記の対照本文の作成の後、漢文『蒙求』欄外書入れと、『蒙求聴塵』及び『蒙求抄』の相互の引用関係を明らかにすることが必要である。また、その引用部分が改変されているかどうかを明らかにすることも必要であろう。この引用関係の解明により、清原宣賢個人の学問の発展状況を検討するとともに、中世における学問の在り方の一端を明らかにすることが第二の目的である。

3. 研究の方法

(1) 対照用の本文を作成するための資料の収集を行う。

漢文『蒙求』

京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』(上中下三巻)については、既にマイクロフィルムからの白黒の紙焼きを所有しているが、本文に書き加えられた朱筆等により不鮮明な部分も多い。そのため、京都大学附属図書館がインターネット上に公開している清家文庫蔵『蒙求』の画像を利用し、不鮮明部分の確認に用いる。

『蒙求聴塵』

慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』(上中下三巻)については、既にマイクロフィルムからの白黒の紙焼きを所有しているが、本文に書き加えられた朱筆等により不鮮明な部分も多い。そのため、慶応義塾大学図書館にカラー撮影によるデジタル写真のプリントアウトを依頼し、入手する。ただし、慶応義塾大学図書館より入手したカラーのプリントアウトには、付箋等により判読不能な部分も多い。そこで、国立国会図書館に依頼し、国立国会図書館蔵『蒙求聴塵』(上巻のみ『蒙求聴塵』、中下巻は『蒙求抄』である)のマイクロフィルムからの白黒の紙焼きを入手し、上巻の不鮮明部分の確認に用いる。また、中下巻については京都大学附属図書館がインターネット上に公開している清家文庫蔵『蒙求聴塵』(中下巻)の画像を利用し、不鮮明部分の確認に用いる。

『蒙求抄』

古活字版『蒙求抄』(七冊)については、清文堂より出版されている『抄物資料集成』所収の宮内庁書陵部蔵古活字版『蒙求抄』を利用する。また、別系統の『蒙求抄』とされる米沢市立図書館蔵『蒙求抄』(上中二巻)については、米沢市立図書館に依頼し、マイクロフィルムからの白黒の紙焼きを入手する。

(2) 収集資料の全文データ化を行う。

京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』本

文・欄外書入れ、慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』、宮内庁書陵部蔵古活字版『蒙求抄』、米沢市立図書館蔵『蒙求抄』の全文データ化を行う。これらの本文は、小字による割注、本文の左右の行間に振り仮名、音注等の注記、文字の補入等を含む、いわば平面的なテキストである。収集した資料の全文データ化ではプレーンテキストとすることを予定しており、上記の平面的な情報を{ }等の複数の括弧を用い、それぞれを括弧内に表示することで本文内に含ませ、線的なテキストとして表示する。ただし、漢文の返り点・訓点等は、今回のデータには含めない。

(3) 対照用の本文を作成する。

上記の全文データをもとに対照用の本文を作成する。ただし、各文献での漢字の異体字の使用に違いがあり、また仮名字母の違いも見出せる。また、同一の語に対する振り仮名の有無もあり、さらに仮名遣いの違い、送り仮名の違いもある。相互に参照可能な本文とするためには、ある程度これらを統一する必要がある。そのため、次のような方針により、対照用の本文を作成する。

異体字と考えられる漢字については、諸橋轍次『大漢和辞典』(大修館書店)の記載に従い統一する。たとえば「床」・「牀」は「牀」に、「佩」・「珮」は「佩」に統一する。これは、本文を検索する際に漢字・漢語を検索キーとして検索することが多いであろうと考えたためである。漢字・漢語を検索キーとして検索する場合、常に異体字の存在が問題となる。そこで、そのような異体字の問題を回避するための統一である。

仮名については、「ゐ」「ゑ」を含む47文字の範囲の平仮名、片仮名に統一する。これも検索の便を考えた統一である。

振り仮名、仮名遣い、送り仮名等は、原本のままとする。

慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』、宮内庁書陵部蔵古活字版『蒙求抄』、米沢市立図書館蔵『蒙求抄』はともに漢字片仮名交りの本文である。対照用の本文の作成にあたり、慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』、米沢市立図書館蔵『蒙求抄』は漢字平仮名交りの本文、宮内庁書陵部蔵古活字版『蒙求抄』は漢字片仮名交りの本文とする。引用の確認のために複数の本文を検索すると、ほぼ同一の文章が表示されると考えられる。そこで視覚的印象を変えることにより、検索の際の誤解を避けるための変更である。

(4) 上記で作成した対照用の本文を用いて、相互間の引用関係を明らかにし、引用の改変等を確認する。また、その改変が単なる引用の都合上での改変なのか、学問的発展なのかを見極めることも、清原宣賢の学問の在り方

を採る上での、重要な視点となると思われる。

4. 研究成果

(1) 京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』(上中下三巻)の漢文本文の全文データ化を行い、対照用の本文を作成した。また、対照用本文はJIS第一・第二水準の漢字を使用し欠字を■で表示したJIS版と、超漢字大漢和文字の漢字を使用した超漢字版との二種類を作成しインターネット上で公開した。ただし、公開したものは本研究用に作成した対照用の本文であり、原本を忠実に再現したものでないことは付記しておく。なお、京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』の漢文本文を全文データ化した目的の一つは、清原宣賢の依拠した漢文本文を知ることであった。ただし、京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』の漢文本文は、誤写のためか、依拠した本文のためか、必ずしも善本とはいえない。また、『蒙求聴塵』には、京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』以外からの引用ではないかと疑われる部分も、少数ながら存在する。もちろん、単なる誤写の可能性もあるが、他の『蒙求』の漢文本文との対照が出来ず、確証にはいたらなかった。そのため、清原宣賢の依拠した漢文本文を知るためには、各種の『蒙求』の漢文本文のデータ化が必要であり、これは今後の課題となる。

(2) 慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』(上中下三巻)の本文の全文データ化を行い、対照用の本文を作成した。これもJIS版と超漢字版との二種類を作成しインターネット上で公開した。また、これも本研究用に作成した対照用の本文であり、原本を忠実に再現したものでないことは付記しておく。

(3) 宮内庁書陵部蔵本古活字版『蒙求抄』(七冊)の本文の全文データ化を行い、対照用の本文を作成した。当初の計画では、全七冊中の第一冊のみの全文データ化を予定していたが、全七冊につき全文データ化を行い、対照用の本文を作成した。これもJIS版と、超漢字版との二種類を作成しインターネット上で公開した。また、これも本研究用に作成した対照用の本文であり、原本を忠実に再現したものでないことは付記しておく。

(4) 米沢市立図書館蔵『蒙求抄』(上中二巻)の本文の全文データ化を行い、対照用の本文を作成した。これもJIS版と、超漢字版との二種類を作成しインターネット上で公開した。また、これも本研究用に作成した対照用の本文であり、原本を忠実に再現したものでないことは付記しておく。

(5) 京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』(上中下三巻)の欄外書入れの全文データ化を行い、対照用の本文を作成した。この欄外書入れの対照用の本文を、上記の慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』、宮内庁書陵部蔵本古活字版『蒙求抄』、米沢市立図書館蔵『蒙求抄』の対照用の本文と対照し、『蒙求聴塵』各『蒙求抄』での所在の有無を確認した。所在が確認できたものについては、その位置と記載内容とをすべて特定した。これは京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』の欄外書入れを、『蒙求聴塵』各『蒙求抄』がどのように引用したかを知るための基礎的資料となる。ただし、全体的に複雑なデータとなっており、現在も整理中である。

(6) 対照用本文による対照の結果等から、京都大学附属図書館清家文庫蔵『蒙求』欄外書入れは、数度にわたる書入れであることが確認できた。特に注目したのは、清家文庫蔵『蒙求』中に書入れられた評語の位置である。清家文庫蔵『蒙求』の中・下巻には標題の内容を二字の熟語で表現する評語が記入されている。標題は、四字句を二句ずつ対としてあげるが、その第一句に対する評語の大部分は、標題直上の欄外に記入されている。ところが、30例の評語は、既に頭注が書入れられていたためであろう、標題直上にはない。この30例のうち「王濬懸刀」(中3ウ10)など16例は標題直上からずれている。特に「杜康造酒」(中7才4)など3例では標題の前行また次行の上となる。また、「伊尹負鼎」(中30才12)など13例は、欄外ではなく本文中の行間に記入されている。さらに、「廣徳從橋」(中73才4)では、評語が本文中の標題の下に記入されている。このように、評語が頭注を避ける形で記入されていることは、評語が記入された時点で既に頭注が記入されていたことを示すものである。このほか、注記の順序が『蒙求』本文での順序と異なっているもの、また、注記が他の注記により分断されているものなど、後の書入れであることを思わせるものも散見する。このことから、清家文庫蔵『蒙求』の欄外書入れは、数度にわたり書入れられたことが推定できる。

(7) 対照用本文による対照の結果等から、慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』の本文は、数度にわたる書入れであることが確認できた。特に注目したのは、国会図書館蔵本『蒙求聴塵』(上巻のみ)との違いである。慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』は清原宣賢自筆本であり、国会図書館蔵本『蒙求聴塵』はそれを書写したものである。この国会図書館蔵本『蒙求聴塵』には、142カ所の空白部分がある。この142カ所の空白部分のうち45カ所が慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴

塵』ではなんらかの文字が書入れられている。このことは、142カ所の空白部分がある清原宣賢自筆『蒙求聴塵』を書写したものが、現在の国会図書館蔵本『蒙求聴塵』であり、その書写の後に、この142カ所の空白部分のうち45カ所の空白部分に、清原宣賢が新たに書入れをほどこしたものが、現在の慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』であることを示している。そのほか、筆跡などからも、慶応義塾大学図書館蔵『蒙求聴塵』の本文は、数度にわたり書入れられたことが推定できる。

(8) 現存する『蒙求抄』諸本を細かに検討した結果、両足院現存三冊本『蒙求抄』の行間に記された「轉八重ナルコトソ」(1冊6ウ10と11の間)のような注記の何例かが、両足院現存四冊本『蒙求抄』、宮内庁書陵部蔵本古活字版『蒙求抄』では、本文中に組み入れられていることが判明した。このことは、両足院現存三冊本『蒙求抄』が書写された後、行間に新たな注記が書入れられ、その注記を本文に組み入れることで両足院現存四冊本『蒙求抄』、宮内庁書陵部蔵本古活字版『蒙求抄』が成立したことを示している。さらに、両足院現存四冊本『蒙求抄』ではその行間に新たな注記が書入れられている。これらの『蒙求抄』は、「清原宣賢講林宗二聞書」とされるが、これらの行間の書入れも林宗二によるものであるかは、今のところ特定できていない。ただし、書写された『蒙求抄』の行間に新たな注記が書入れられる。その行間の注記を本文に組み入れ、また新たな『蒙求抄』が作成される。さらに、その新たな『蒙求抄』の行間にも新たな注記が書入れられるという、いわば「増殖するテキスト」として『蒙求抄』が存在していることが確認できた。そして、古活字版『蒙求抄』も、固定的な書籍としての『蒙求抄』ではなく、「増殖するテキスト」としての『蒙求抄』の一段階を出版したものと考えられる。

(9) このような「増殖するテキスト」という特徴は、漢文『蒙求』欄外書入れ、『蒙求聴塵』本文でも見出せる特徴であった。すなわち、清原宣賢の『蒙求』についての注釈作業は、常に新たな知見・知識を追加する作業であったといえる。もちろん、学問が常に新たな知見・知識を追加することであるならば、このような作業は、基本的で、当然な作業であるともいえよう。ただし、我々に与えられた文献は「増殖」の終わったいわば静的な文献である。今回は複数の静的な文献を対照することで、このような「増殖」ともいうべき動的な様相を明らかにできたと考える。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

住谷芳幸、国立国会図書館蔵『蒙求聴塵』について、岐阜女子大学紀要、査読無、第41号、2012、37-51

[その他]

ホームページ等

<http://www.gijodai.ac.jp/user/sumiya/ka ken.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

住谷 芳幸 (SUMIYA YOSHIYUKI)

岐阜女子大学・文化創造学部・教授

研究者番号：50179305

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：